

# 「しずおか経済 オンリーワン」 読売新聞に掲載されました

2026年(令和8年)1月17日(土曜日)

宣

宣

乗

座



溶射作業 (村田ボーリング技研提供)

機械の部品は、一から作るのではなく、溶射加工で3工程から成る。ボロボロに摩耗した部品を溶射できるような削り

機械の部品は、一から作るのではなく、溶射加工で3工程から成る。ボロボロに摩耗した部品を溶射できるような削り



## 溶射加工 熟練の技術

輪転機や工作機械など使う間に摩耗していく機械の部品。その表面に金属やセラミックなどの粒子を吹き付けて強化する技術「溶射」を専門にするのが、静岡市駿河区の村田ボーリング技研。自称「社長の仕事を一般社員」の村田光生社長(68)は「人を大切にしていかないと生き残っていけない」と強調する。

(栗山泰輔)

### 村田ボーリング技研 (静岡市)

だ。

スマートフォンやテレビなどの液晶の製造に欠かせないロールに、セラミックを溶射しレーザー光線で彫刻する技術も持つ。国内では2社のみの技術だという。

工場には、汎用工作機械もずらりと並ぶ。コンピュータを持たず、熟練職人がハンドルやレバーを手作業で動かして、部品ごとに加工する機械だ。年間の取引企業は700～800社あり、多種多様な部品の加工を担う同社には欠かせないという。

◇ 同社では、10年ほど前から

1950年に自動車エンジン用のボーリング(再生)を目的に創業した。本社は静岡市駿河区北九十九丁30の45。従業員は20歳代～70歳の約90人。県内や神奈川県、愛知県や福島県、中国・上海にも拠点を持つ。

「人を大切にする風土」づくりを進めてきた。「社員同士が互いを幸せにして、お客様が喜ぶ姿を想像し、わくわくしながら仕事をやる職場づくりがしたい」と村田社長。社員の意識が高まったことで、これまで断っていた取引先からの緊急依頼も、徹夜で仕上げて早期の納品を実現できたこともあったという。

充実した福利厚生制度も整った。有給休暇を4分割して取る「2時間有給制度」を導入し、通院や子どもの送迎などに便利と好評だ。社長メッセージ付きの誕生日ケーキや防災バックが家族分贈られるなど独自の制度もある。

これまで製造部門に女性従業員はいなかったが、人口減社会に対応するため、積極的に採用している。福利厚生の充実、女性従業員の定着にも効果的で、現在は「溶射女

子」と呼ばれる。人が製造現場で活躍している。

「後加工」で部品研磨を担当する伊藤麻衣子さん(44)は「人間関係のストレスもなく、困った時は男性社員が助けてくれる。みんなで技術向上を目指す風土がある」と話す。前職で検品の仕事をしていたため、目視の検査も任せられているという。「自宅で食事を作れて大学生の息子との時間も増えた」と喜ぶ。

同社は経営理念に「社員と家族、取り巻く全ての人々の安心と幸福を実現する」と掲げる。村田社長は「社員が大切にされていると思えるほど、魂が込められた物作りができる」と強調する。「なぜ長持ちするのかと聞かれたら、うちの商品には心が入っている」と言いたい」と力を込める。



社章のムラタ坊やと村田社長 (静岡市駿河区で)

しずおか経済